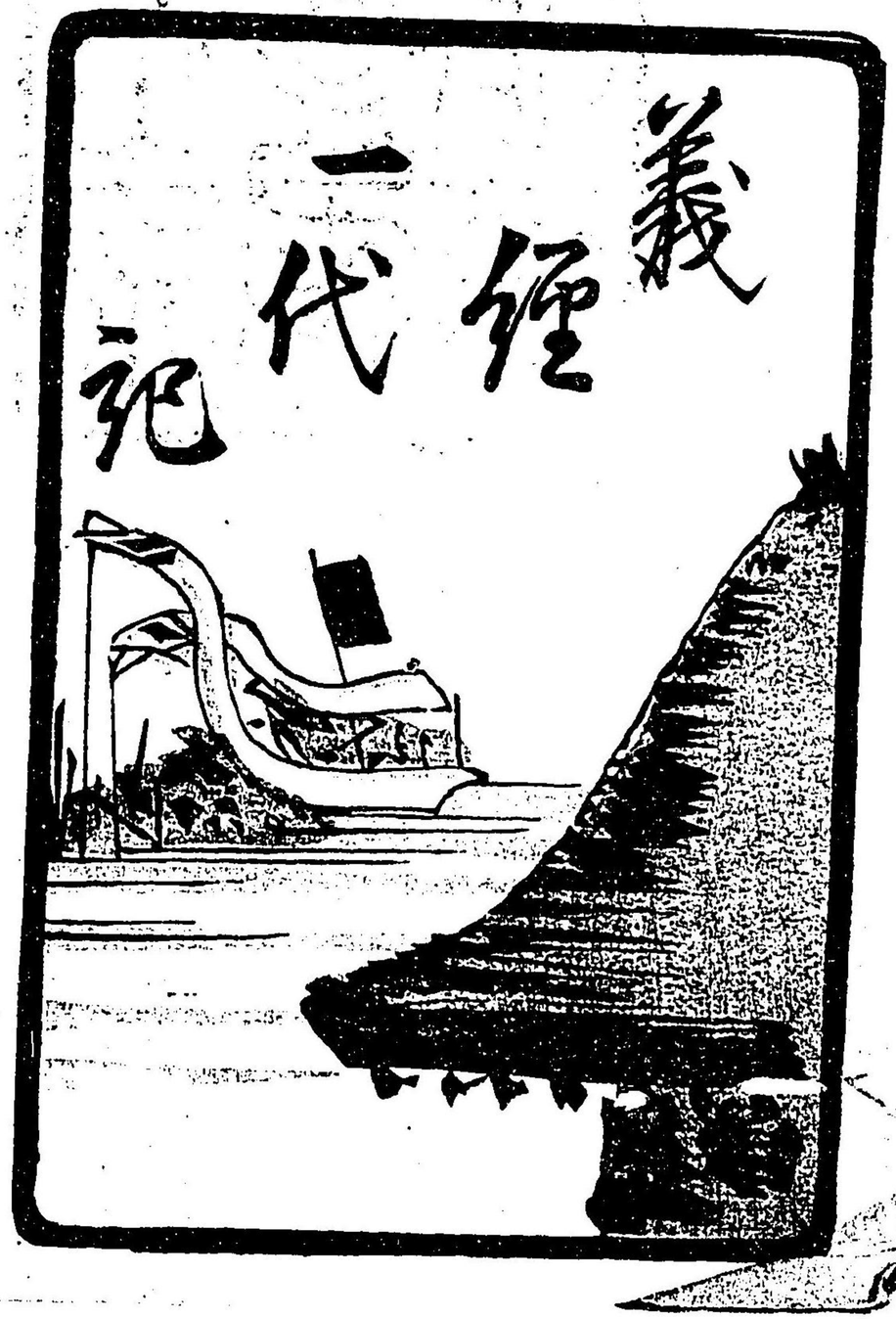
松延堂梓
特59
924

義經一代記



[illegible]

[illegible]

[illegible]

義經

永暦元年平氏の為ふ義朝亡びて室常盤御前今若乙若牛若の三子を誘ひ雪中を落行しが竟ふ捕はれ○常盤御前心を変じ操を破棄して立んと清盛の意ふ従ひて三子の命を乞しよう牛若い

三才にて鞍馬寺ふ送る生長ふ及び文学ふ眼をさらーす夜々山中ふ入りて刀鎗の術を試こ能く其奥義を窮めて大義を思ひ立密ふ洛中へ忍び出同志集ん為五條の辺りを徘徊せーふ或夜年慶毎夜小年の徘徊いとあやーとをどーてえんと牛若丸ふおて□しーが□ろうしが牛若せしも動せんだもろふと受とめ渡り合進退乗鳥のごとし

次丑

牛若丸
後會を約し牛若丸の尚洛中を巡りて

弁慶
奥州
金賣商吉次
旅中赤坂の駅
強賊熊坂
熊坂
牛若丸直ふ
秀衡
大義をのぶる秀衡

然るに兄頼朝木曾を追討のことを聞迅ふ馳登り

○いふを佞人梶原その論を遮り破らんとせ義經きっと竟ふ逆櫓を用ひて大勝利をえさりしより梶原義經に一層怨み倍し頼朝へ讒言しける八島檀の浦の戦ひに平家の猛将能登守教經義經と一ひ〻げ義經

牛若丸

兄弟相會し木曾の強兵を打平げて京師に至り平氏追討を議し迅ふ一ノ谷へ發せ平家能く防ぎ戦ふに平家鵯越の嶮岨を頼み守の兵をちうず義經これを察し兵を別ち自ら嶮岨をこえ思ひけんに身を

ひ〻ぜ間道より攻入けるに平家の軍兵狼狽し敗走して西海へのり出せれが尚船戦の評議るに義經逆櫓を用ひんと

つゞき
皆鶴姫
八艘を飛こえ逃るる教経もつゞひて追ふと○
任官の御所を賜ふ
堀川の御所を賜ふ
義経威盛んなるを故北條の奸計梶原の佞奸ひゐ頼朝に讒言し
ける

ものへ
牛若丸
源軍ども竟ふの△
△こゝに亡命せり義経平家追討の功抜羣ふすり伊豫守ふ□
頼朝怒甚しく兵發し義経を討
佐坊昌俊を討手ふ差向
昌俊堀河殿一□

夜討を
なせしが
一戦み昌
俊打敗らるゝ
こう義經討
やるといへども
我この任在まの詭
者のためは倍兄
頼朝の惡こつよう
らんと堀川殿を
退そき伊豫へ赴
うんと大物浦より
出帆せーゴ海中

◐あゝこれ既ゴ船も覆へらんとなせーを△

教經

△弁慶法力をつくし退ぞけーども

俄は暴風起激浪の中ゴ平家一門の霊

◐船へ住吉浦へふきもどされたり義經主従止を得ぜ上陸し

それより吉野へ潜伏せ頼朝吉野の大衆ゴ命じて捕えんとせ僧

義經

追ふ此時佐藤忠信主徒ら義經をとおとし其身一人をことでまう

敷百の僧侶を打ゐやまう

次工

その中に覚範とて強勇の僧

○義経を目をつけ奇べと最慶弁慶いろり義経を偽り勧進帳をよみ漸く通行ふ京の君も山伏ぎなれて

あり忠信に打てうしろ遂に忠信ふくれくり其身は主に代り討死せり夫は偽をき義経は主従とゐ山伏の姿に出たち奥州さして落ゐきける頼朝倍ゝ厳命をくだし主従を取をきへんと所々へ新関をうまくその調いときゞ爰に奥州安宅の関守富樫左エ門尉なりその志ゝ厳にして容易に通行成がたし弁慶もらひ先導しろをも関所にいろ諸國勧進をる者なりとて通行をゝけれども関守よりいみをるさだ。

そのうちに在しゞ折しも懐胎のところ安宅の関をこえさるのち

つぎ

いとうしころ俄に産のけ
つきやもと安産しるひける。

○主従千万心苦しふやく奥州へ

△歌をせくりける諸臣その情をきつゝ涙ざをのこふ
も頼朝いろをへんど静義経を
をきこふ其意
をるも迅よ
誅さんとも政子又
いさめて止梶原景茂
酩ふ

着し秀衡義経を高舘へ移

○もくるやようやむを
えも離別の曲をとるひそ
舞ひまさ義経を
暮ふ

義経の愛妾静を吉野あく別もしゞ北條時政の手ふとらへれ鎌倉へおくられ義経の在所を責ところ固く知をといふそのころ静姙身
しるゆえ政子これをとゞめやうり静舞をよくを
頼朝舞のぞむとりへと固く辞をきれども再三の○

静ふたわむしるゝづゝいろ景茂をもとむ日静男子をうむ安達清経命を受図

つぎ　その子を
うぢひて
○我しぬ
それかさてちき

弁慶

○泰衡の
兵を追
ひ
とも鎌倉
の討手をひ
くとも弁慶の勇
み敵しげと
く敗走をうく弁慶の
豪勇ついてれまくも鎌
倉勢こき
ことをえ
ことを比度

奥州へ
ひて秀衡
病をうり卧
けるグ次第を重く
ひみ没を鎌倉
みくに奥州を征さんと
軍馬をりうう
討手を●

親の意をそむきて
頼朝みつうじてひそ
うに兵を愛し衣川へ
おそふ義経ふせさ
戦ふ弁慶もてん
で。

必死のも
ならきもえ
いづきも敵
うこのさく
弁慶う
ちりで
ちり
と
口きけ
う

●さ一向
たりこの時。

義経主従蝦夷へ
いとらんと
変じて夜
ちゐ弁慶
のうさち
をとら
につく

つぎ
てもし
る然るとども城
中へ兵をくる
義経いうわど
智あり弁
慶勇る
とも討手の兵
おひく加ろ
寡へ衆ゐてき

弁慶

つぎ よろひけけ城門の外へこそせよとりよせていのくとゝ知び夜のあくるや否城際へ押よせる朝きりふまきれ確と見つらねど門外ゝ弁慶行こうまゝ弁慶必死をきゝめくりとゝがゝ近づけて戦ひ

弁慶 ゐんきゝ

△うごうもこゝふ

〜んと近づけ真けもゝ弁慶の

あらざまてつもゝ

もーと歯がみ

城中へ攻

○遠矢ゝ 義経

けんとひつめく射とつもとゝ

入りゝふ

ゝゝ城

ゝ火をうけ

稽の上へ

伊勢の三郎主従代

り自殺

燃て

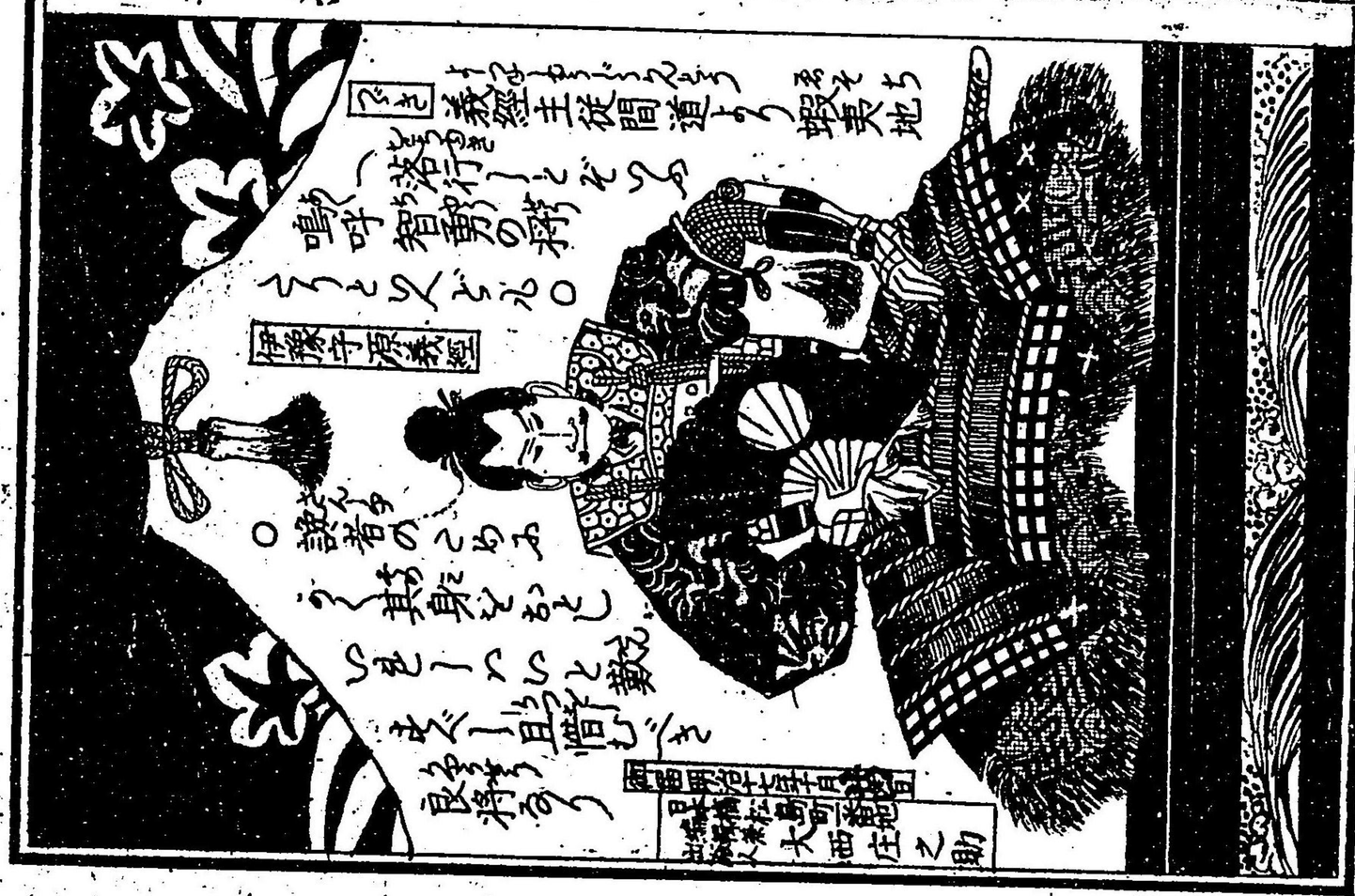
火の中

とび

ひよゝふ

つぎ

此


伊勢守源義經
大内左衛門尉
西庄之助